

2010年7月27日
株式会社パスコ

(事例紹介)

山陰の小京都「ユビキタス観光ガイド」7月よりサービス開始 ～観光客の増加、滞在型のまちづくりを目指して:島根県津和野町～

総務省は、ICT 関連技術を集中的、効果的に活用して、地域住民の生活の利便性向上、安心・安全を実感できる街づくりの実現に向け、地域の医療、福祉、防災、行政、産業、農業、観光などの様々な分野で「ユビキタスタウン構想推進事業(平成 21 年度)」を推進してきました。

このたび、サービスを開始した「津和野町ユビキタス観光ガイド(以下、ユビナビ)」は、津和野町が目指す“観光の活性化(地域経済社会の活性化)”の実現に向けた「ユビキタスタウン構想推進事業」の一環です。

パスコは、今回のシステム構築において、サービスの企画、システム開発、コンテンツ制作、ICT 人材育成などを行いました。

※参考

「ユビキタスタウン構想推進事業」の総務省報道資料(2009年12月15日)

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/chugoku/hodo/2009/2009jo083-1.html>

「津和野町ユビキタス観光ガイド」のお知らせ

<http://www.tsuwano.ne.jp/kanko/modules/pico/index.php/content0155.html>

■津和野町の概要

津和野町は、山陰の小京都として有名な観光地で、街全体に江戸から昭和の景観が残っています。また、森鷗外をはじめとする数多くの偉人、文化人らを輩出し、街のいたるところに名所・旧跡が所在します。

津和野町では、これらの観光資源を活かした観光客の増加、リピータの増加、滞在型のまちづくりを通じて地域社会の活性化、観光客の散策時の利便性向上を目指し、7月より「ユビナビ」のサービスを開始しました。

■「津和野町ユビキタス観光ガイド(ユビナビ)」の特長

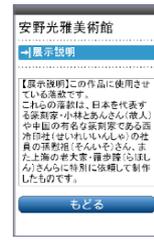
「ユビナビ」では、町内の主要観光コース付近の屋外 30 箇所と美術館などの施設内 14 箇所の計 44 箇所に、電波や赤外線を発するマーカを取り付け、場所ごとに固有の信号を発信する仕組みを整備しました。専用の携帯端末を持った観光客が、名所の近くにさしかかるとマーカの信号を受けて端末に自動的にそれぞれの場所に由来する情報が提供されます。提供する情報には、写真や動画・音声を交え、

催事など「そのとき」しか見られない情報や、歴史の情報などを提供します。これにより、「まちごと美術館」というコンセプトを実現し、屋内外をシームレスに繋いだ情報サービスを観光客に提供します。

また、携帯電話向けの情報提供も同時に行っています。携帯電話版のサービスは、街角にある案内看板などに取り付けた QR コードを読み込むことで情報を閲覧することができます。

(携帯電話版コンテンツは、専用端末版コンテンツを簡素化した内容です。)

【専用端末】



上左 : 情報検索
上右 : 場所ごとに由来する
観光情報
下 : 音声・動画情報

【携帯電話】



携帯でQRコードを読み取ることで、ユビナビの携帯版(簡易コンテンツ)を参照できます。



本件に関する問い合わせ先:

株式会社パスコ インフラマネジメント事業部 技術二部 TEL 045-982-1431

(報道関係のお問合せは 広報担当 TEL 03-3715-1048 まで)